

令和元年度実施 大網白里市住民協働事業 成果報告書

事業名	ハマボウフウ特産品化プロジェクト	
事業主体	実施団体	市（関係課）
	街資源再興プロジェクト	農業振興課

事業費	予算額	決算見込額	市補助金額（交付決定額）
	397,000 円	224,446 円	224,446 円

【 ①目的・課題について 】

次の事項がわかるように、事業概要を記入してください。

○どのような地域課題（行政課題）、住民ニーズに対して、

○いつ ○どこで ○誰を対象に ○どんなことを ○どのような方法で実施したか。

古くから漢方薬・民間療法薬として利用されてきたハマボウフウ、山菜として地元に使われていたハマボウフウも、乱獲のあおりから環境省レッドリストCおよび千葉県では絶滅危惧II種要保護生物に指定され、海岸からの採取は難しくなり、やがて地元の方々から忘れられてしまった。だが、一方では高級食材として料亭などで扱われている。これを大網白里の味として活かさないのはもったいない。市の特産品に出来ないか。昔の料理法を参考に、市民に新しい料理の食材として取り入れていけるようにする。また漢方薬などに使われているのでその成分や効能などを調査。栽培に協力してくれる農家を探し栽培を依頼、そこで採取したハマボウフウを、飲食店へ持ち込みメニューに取り入れてもらえるように交渉し、市民も身近な食材として親しみを持ってもらえるよう宣伝する。年間を通じて加工品として商品化できるかなど、行政の関連部署などに協力を要請し、大網白里市の春の旬の野菜として、また加工品は年間を通して「大網白里市に來ると高級食材のハマボウフウが手頃な値段で楽しめるよ」と言われるようにする。

又、各家庭などでも普段の食事に取り入れられるように、一般販売を展開していく。白里海岸の再生・保全活動で協力を仰いでいる里親さんに、大網白里の特産品として街おこしをする事で海岸の保全につながることを理解してもらう。

【 ②企画・効果 】

次の事項がわかるように、成果を記入してください。

○事業の内容が具体的で目標達成に向けて適切だったか。

○協働で行うことでどのような効果が得られたか。

○住民の満足度は得られたか。 ○他の団体との連携や協力により効果をあげたか。

○事業を行うことで、市民や地域、他の団体への波及効果（広がり）はあったか。

① 畑でのハマボウフウ栽培

- ・実際ハマボウフウを栽培したいとの申し出は、昨年度から数件の農家さんから問い合わせがあったものの、すべて大網白里市外の方であった。事業自体が、大網白里市との協働事業であるためお断りし、根気よく市内の方に毎月広報誌を通じて募集し続けた。担当課もこちらで作成した資料を配付して、問い合わせの窓口となり、協力してくれたおかげで一件の農家との栽培協力が得られた。
種まきをしたのが遅く、春の収穫量が未定ではあるが大きな成果であった。
- ・市内の数件の市民の方が栽培してみたいとの申し出により試験的に栽培をしてもらえた。その方が市外に住む人から苗を譲ってほしいとの申し出に、これはある団体方の大切な預かり物であり、大網で広めたいから譲れない！と断ってくださったことから、市民の方々からの信頼と期待を身近に感じた。
- ・土地の PH 測定の結果、非常に海岸の自生地の数値に近い条件であることの確証が取れた北今泉の畑で、平成30年9月に新たに耕作した場所に蒔いた種が、非常に順調に生育したので、3月末から7月までは多く収穫ができ、協力店への販売に加え、一般販売が可能となった。しかし、露地物は花が付き種になってからは葉が堅くなり、販売は中止せざる終えなくなった。9月10月と畑の様子を見ていたが、新芽の伸びも停滞する中、来年度のためにも株自体を休ませ、品質を保つこととした。その矢先に、二回の台風と大雨に見舞われ株自体が水と泥にかぶり、畑がかなりのダメージを受けた。その後修復作業と草取り作業、耕作作業、マルチかけ作業、防草シート敷き作業と、作業時間と人件費がかさんだ。
- ・露地物の補完としてビニールハウス栽培を協力してくれた農家もイチゴ栽培に忙しく、4月末で撤退されたため、代わりにビニール栽培に協力してくれる農家を市の広報誌や、担当課から声がけしてもらっても、見つからず、やっと8月に一軒見つかったが、台風と大雨の被害で栽培を断念せざる終えなくなった。畑の被害とビニールハウス栽培は見通しが立たない時期があった。
- ・そのため今年度は新たな耕作地の面積が少なく来年度の収穫量も今後と変わらない程度になる予想である。

- ・今後は新芽をつけなくなってしまった3年目の株を掘り起こし、利用方法を検討していく予定である。

② ハマボウフウの成分含有量検査依頼

- ・平成30年度に成分解析した中で突出した成分が、100グラム中何グラム含有されているのかを検査してもらうため、「日本食品機能分析研究所」に依頼した。
他の食材と比べても、かなり高い数値が認められたため、機能性食品としても活用できる確証が得られた。見せ方と売り方によっては面白いと研究員の感想であった。そのため、昨年度成分解析を依頼した、鈴木氏に連絡したが退職されていたため、工学院大学の先生を紹介されたが研究テーマがすでに決まっていたため機能性食品として研究を推し進めることができなかった。

③ 海岸再生のため環境部門と協力して両輪で行ってきた活動で、地道に行ってきた年2回の海岸への種まき会やハマボウフウ通信の発行、大網高校との連携により知名度が市内でも徐々に広がりを見せ始めた。小学生の保護者からもハマボウフウを知っているという声に、その広がりには確証が持てた。

④ 販路の拡大

- ・一般販売の開始により、市内の「いなほ農産物直売所」のオーナーに直接営業を行なった結果、仕入れ状況の多少に関わらず毎週出荷することが決まった。
すべてお店側の買い取りで、在庫の引き取りなしの条件であった。市内でも新鮮な直売の野菜があることで人気のお店だけあり、毎週完売であった。また、お店は高速道路のインターチェンジ付近にあり、都内からの来客も通る道沿いにあるため、PR効果も期待できた。
- ・一般販売用パッケージにはオリジナルの商品名「大網街道 浪漫ぼうふう」とネーミングし、レトロ感を打ち出し、懐かしさと郷愁さを感じるように工夫した。
- ・NPO 法人市民ステーション・まちサポでポスターを貼り、冷蔵庫においてもらい販売できるようになった。
- ・ホームページやYouTubeを見て、都内赤坂のワイン BAL のお店から食材として使ってみたいとの連絡があった。訪問し試供品を提供したところハマボウフウを使っの料理を試作してくれた。お店の従業員とともに試食したところ大変好評であった。実際に栽培畑もみたいとの要望があり、春からの新しい販路に結びついた。

⑤ 加工品の開発

- ・ブランチング加工法により、色が鮮やかな乾燥ハマボウフウができた。香りも乾燥時間の調整により残せるようになった。
- ・葉っぱだけでなく、茎の加工品としての活用法として、ブランチング加工後に出汁醤油や甘酢漬けにした。味の染みこみは出汁のみでつけるのが一番おいしいと感じた。

市内の出汁屋オーナーにお話をもちかけたところ、非常に興味を持っていただけたのでコラボも今後期待できる。

- ・産業祭において、市内の菓子店「お母さんのシフォンケーキ」とのコラボ商品として、乾燥ハマボウフウ入りのサーターアンダギーやシフォンケーキを共同出店し販売した。香りもよく、効能の説明に興味を持ってくださる方も多く、機能性食品としての可能性を感じた。

⑥ 継続した PR 活動

- ・ホームページの管理をあみなび会に依頼したことで、リアルタイムでの情報発信が確立でき、アクセス解析により Facebook 広告をだすときの年代層や地域などターゲットを絞り込めより効率的な PR が確立できた。
- ・協力店へ来客した若い女性の協力も得て、インスタグラムに料理をのせてもらうなど、地道な PR 活動を継続してきた。

⑦ 法人化に向けての動向

- ・栽培協力農家と販売協力店が予定の数より増えなかったことと、会員の中でも現役で仕事をされている人が多く、今後の法人化は検討事項として持ち越された。

⑧ 千葉大学とは、今後も情報交換していくことで連携を図っていく。

⑨ ネットトヨタ千葉株式会社 経営企画部の訪問を受け、CSR 一環として事業に対しての協力の打診があった

協働による効果について、自己評価 (☑) をしてください。自己評価の理由もあれば記入してください。

団 体	市 (関係課)
☒ 効果があった ☐ 概ね効果があった ☐ あまり効果はなかった。 (理由) 市の HP や広報誌に掲載されたことで、HP のアクセスも増え、担当課からの声かけもあり栽培に興味を持った方や、飲食店からの問い合わせが市内外からあった。農業振興課のイベント (お米フェア) への参加や、市の大きなイベント (産業祭) へ参加することで、ブースの確保やステージでの PR タイムなどで地域づくり課、商工観光課と	☐ 効果があった ☒ 概ね効果があった ☐ あまり効果はなかった。 (理由) 市内の 5 店舗にてハマボウフウの料理を提供できる下地を作り、令和元年において、生産農家を増やすことができた。団体において P R 動画の作成などを行い、外部への発信を行うことができた。

も連携がとれ、市民および他の課への PR にもなった。	
-----------------------------	--

【 ③実行力 】

団体と市の役割分担について、実際に担った役割を記入してください。

団体の役割	市（関係課）の役割
・栽培協力農家の募集 ・都内飲食店への販売営業活動 ・市内飲食店への食材としての販売 ・市内小売店で的一般用販売への着手 ・一般販売用オリジナルパッケージの作成 ・ポスター撮影 ・イベントへの参加 ・HP や Facebook などの SNS を通じて、市との協働事業であることの幅広い PR 活動 ・大学や他団体との情報交換のネットワークづくり ・ハマボウフウの生態や効能研究、成分解析、成分含有量検査、栽培に有効な土質調査、化学農薬未使用、無化学肥料による栽培の確立、加工品の開発	・会議への参加。 ・加工品の取り扱いに関する情報提供。 ・農家への生産協力に関する依頼。

また、その役割分担は適正であったかについて、自己評価（☑）をしてください。自己評価の理由もあれば記入してください。

団 体	市（関係課）
☐ 適正であった ☒ 概ね適正であった ☐ あまり適正でなかった （理由） ・担当課以外との連携が昨年度よりはとれたと感じた。しかし、もっと話し合いを重ねて意見交換できる機会を増やせたら、各課の役割分担が具体的にできてきたかもしれない。	☐ 適正であった ☒ 概ね適正であった ☐ あまり適正でなかった （理由） 当初計画での役割分担であった農業者の紹介や大網高校とのつながりを手助けすることができた。

事業スケジュールについて、当初の計画と実際に実施した内容（実績）を詳細に記入してください。

当初の計画	実 績
4 月 栽培農家拡充(通年通じて) 市内飲食店への PR および協力店舗への供給(通年通じて) 市場調査(通年通じて) 行政および栽培協力農家との情報交換(通年通じて定例会議開催) 収穫作業 定植作業 H P 配信 (通年通じて)	4 月 30 年度事業報告書作成及び成果報告会データ作成 ハマボウフウ苗の移植作業 平成 30 年度住民協働事業成果報告会出席会議 総会開催 草取り作業
5 月 収穫作業 草取り作業 市内スーパーに試験的販売開始 レシピ集作成	5 月 ネットワーク会議 畑の PH 測定と海岸自生地での PH 測定 畑の空いた場所に苗の植え付け作業と田邊氏の畑移植作業 一般販売用ポスター作製の撮影 草取り作業
6 月 収穫作業 草取り作業 加工品および根の成分解析依頼	6 月 ネットワーク会議
7 月 収穫作業 草取り作業 種取り作業 ポップ作成 協力店動画作成 F B での広告	担当課への報告 一般販売用価格決定およびパッケージ作成 レシピの作成 いなほ生産物直売所へ販売依頼 工学院大学訪問
8 月 収穫作業 草取り作業 種取り作業	池田礼仁氏(南横川在住農家さん) ハマボウフウ栽培についての説明および畑視察 草取り作業
9 月 収穫作業 草取り作業 種蒔き作業 加工品開発	7 月 ネットワーク会議
10 月 収穫作業 草取り作業 加工品(サプリメントまたは機能性食品)開発	活動 PR と大網高校と地元団体との交流会参加
11 月	加工品の依頼、および販路拡大における新しい協力店としての依頼 赤坂あびる亭チーフシェフ田中義明氏へ食

収穫作業 草取り作業 加工品開発 アグリビジネス創出フェア 2019 に参加 1 2 月 加工品開発 ハウスおよび水耕栽培試験的 試み 1 月 加工品開発 ハウスおよび水耕栽培試験的 試み 大網白里市産ハマボウフウの動画作成 2 月 加工品開発 ハウスおよび水耕栽培試験的 試み H P の英語版作成 3 月 収穫作業 草取り作業 種蒔き作業	材としての販路拡大 PR と営業活動 新作料理の試作と加工品試作ブランディング の試作 葉大学工学部インテリア学科環境デザイン 室との活動報告に関するの情報交換 草取り作業 8 月 ネットワーク会議 新作料理の試作と加工品試作 草取り作業 9 月 ネットワーク会議 台風後の畑の修復作業 産業文化祭における加工品のコラボ企画に ついての提案会議 産業文化祭産業の部説明会出席 農業振興課主催お米フェアに参加 草取り作業 1 0 月 ネットワーク会議 大網高校ボランティア募集のプレゼンテー ション JA 緑の風説明会に参加 産業祭において、加工品の販売 畑の耕作作業 畑のマルチかけ作業 種まき作業 草取り作業 大雨後の畑の修復作業 1 1 月 ネットワーク会議 田中さんの農園でのハマボウフウの種まき 作業 草取り作業
--	---

	防草シート敷き作業 1 2月 ネットワーク会議 防草シート敷き作業 草取り作業 1月 ネットワーク会議 防草シート敷き作業 草取り作業 2月 ネッツトヨタ千葉株式会社経営企画部畑の視察 ネットワーク会議 3月 ネット上において臨時総会の開催 ネット上において臨時総会の決議報告 決算書作成提出、活動記録作成提出、報告書作成提出
--	--

また、当初の計画と実績をみて、事業スケジュールの組み立ては妥当であったかについて、自己評価（☑）をしてください。自己評価の理由もあれば記入してください。

団 体
☐ 適正であった ☒ 概ね適正であった ☐ あまり適正でなかった (理由) 協力栽培農家の開拓、一般販売開始、都内飲食店への販路開拓、市内イベントへの参加による市民へのアピール、など広がりを見せる活動ができた。しかし、度重なる自然災害によりハウス栽培の協力農家が撤退されたことや、畑の被害もあり収穫量が伸び悩んだことは当初の予定外であった。研究機関先の担当者の退社により予定していた都内でのイベント参加も諦めなくてはならなかった。しかし市内の産業祭に向けて加工品の開発やコラボ商品の販売などで尽力した。

【 ④継続性 】

住民協働事業により「人・もの・情報・スキル」等、団体の活動基盤が強化した点や活性化した点について記入してください。

（例：〇〇を購入したことにより〇〇のスキルが上がり、効率的に活動できた。〇〇活動により団体の認知度が高まり、参加者が増えるとともに会員も増えた。）

また、2年目、3年目の事業については、1年前、2年前と比べて、事業を継続したことで得られた効果も記入してください。

- ・他団体のあみナビ会に、広告・宣伝的な部分で、HPの作成及び管理やPR動画の作成の中でも重要な編集作業を請け負い、意見を重ねながらリアルタイムでの公開によりさらに多くの人たちに大網のハマボウフウを知ってもらえることが出来た。
- ・耕運機のレンタルと、作業に従事してもらう人たちからのアドバイスと作業内容のおかげで畑での作業効率が上がり、化学農薬未使用・化学肥料未使用による栽培が進んだ。
- ・「日本食品機能分析研究所」に依頼して、ハマボウフウの成分解析を行った。他の食材と比べても、100グラム中の含有量がある特定の成分においてかなり高い数値が認められた。機能性食材として十分アピールできる確証を得た。
- ・もう一つの活動でもある環境（ハマボウフウの自生を白里海岸に戻すため）の活動を通じてこの会の活動を市長や多くの市民にハマボウフウの存在価値を知ってもらえたことと、実際に栽培物を協力店および小売店において食してもらえる機会が出来たことは、宣伝効果として大変大きいことであった。
- ・HPや動画を見たことから、ネッツトヨタ千葉株式会社より、CSRの一環としてハマボウフウの環境と特産品化の両輪での活動が認められて、協力の打診があった。
- ・やはりHPや動画を見た都内の飲食店が食材として使用したいとの申し出があった。
- ・市の広報誌における協力農家の募集掲載記事や、担当課からの呼びかけにより、協力農家が得られた。
- ・担当課のイベントや市のイベントに参加してPR活動や加工品の販売をすることにより、多くの市民にハマボウフウの存在や、食材としての魅力を伝えることができ、より幅広い市内でのPR活動ができた。
- ・SNSを利用することにより、全国に大網白里市での住民協働事業によるハマボウフウ特産品化プロジェクトをひろめることができ、応援してくれるメッセージなども寄せられた。

また、その結果について、自己評価（☑）をしてください。自己評価の理由もあれば記入してください。

団 体
☒ 強化、活性化した ☐ 概ね強化、活性化した ☐ あまり強化、活性化しなかった (理由) ・栽培、販路拡大、PR、営業、すべてが一つ一つ役員とともに話し合い、会員や協力者とともに地道に動き、行動し、反省し、修正してきた結果だと自負する。

【 ⑤必要性 】

団体と市が協働することで、行政サービスの充実・効率化等につながったか、協働による効果について記入してください。また、協働事業として実施し、良かった点や問題点等について記入してください。

団 体
当初より大きなプロジェクトであり、一市民団体だけの力では当然実現不可能であったところ、多くの市民の方々の協力と支援と応援によって三年間、着実に活動が続けられたと感じている。市との協働ということで市民からの期待も大きく、市民に育ててもらったと言っても過言ではない。行政も一市民であることを感じた。担当課や連携した課の担当者の方とともに、真の協働とは何か？本当に市民のための質のよい協働とは何かを模索してきた三年間であったと思う。 これだけ大きなプロジェクトであったため、資金調達が一市民団体では限界を感じるものがあつた。 市民への協働事業としてのアピールとしては、このプロジェクトは効果があつたが、実際は協働事業自体に課題が多いと感じた。
市
協働事業の実施に伴い、大網白里市の観光及び新たな特産品への検討を行うことができた。 令和元年においても生産農家が増え、団体が直接生産せずとも、流通が可能となることが見込まれた。 しかしながら、事業終了に伴い、活動が衰退していく可能性が問題点としてあげられる。

また、その協働による効果について、自己評価（☑）をしてください。自己評価の理由もあれば記入してください。

団 体	市（関係課）
☐ 効果があった ☒ 概ね効果があった ☐ あまり効果はなかった。 (理由)	☐ 効果があった ☒ 概ね効果があった ☐ あまり効果はなかった。 (理由)